



2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月15日

上場会社名 東宝株式会社 上場取引所 東・福
コード番号 9602 URL <https://www.toho.co.jp/>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）松岡宏泰
問合せ先責任者（役職名）上席執行役員コーポレート本部経理財務担当（氏名）加藤陽則（TEL）03(3591)1218
半期報告書提出予定日 2024年10月15日 配当支払開始予定日 2024年11月21日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	163,681	17.2	40,915	33.0	39,781	21.0	26,485	21.8
2024年2月期中間期	139,642	16.0	30,752	18.4	32,881	8.8	21,751	0.9

（注）包括利益 2025年2月期中間期 32,103百万円（ $\Delta 8.1\%$ ） 2024年2月期中間期 34,947百万円（ 52.0% ）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	155.11	—
2024年2月期中間期	124.59	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期中間期	625,153	472,585	73.0
2024年2月期	615,826	484,755	74.5

（参考）自己資本 2025年2月期中間期 456,609百万円 2024年2月期 458,890百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	20.00	—	65.00	85.00
2025年2月期	—	35.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	35.00	70.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	297,000	4.8	62,000	4.6	60,000	$\Delta 4.8$	40,000	$\Delta 11.7$	234.26

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社 (社名) 株式会社サイエンスSARU、除外 1社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期中間期	186,490,633株	2024年2月期	186,490,633株
② 期末自己株式数	2025年2月期中間期	16,957,359株	2024年2月期	12,490,741株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年2月期中間期	170,752,664株	2024年2月期中間期	174,582,883株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述などについてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

第2四半期 (中間期) 決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 中間連結貸借対照表	7
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で、景気の緩やかな回復基調が見られる一方、海外景気の下振れによる景気の下押しリスクや物価上昇、金融資本市場の変動の影響などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢下にあつて当社グループでは、2022年4月に策定した「中期経営計画 2025」の最終年度にあたり、映画、アニメ、演劇、不動産の「事業の4本柱」それぞれにおいてさらなる成長を目指し、積極的な投資や着実な事業展開を進めております。当中間連結会計期間における経営成績は、営業収入は1636億8千1百万円(前年同期比17.2%増)、営業利益は409億1千5百万円(同33.0%増)、経常利益は397億8千1百万円(同21.0%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は264億8千5百万円(同21.8%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

映画事業

映画営業事業では、東宝(株)において、共同製作や配給した作品のうち、「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」が大ヒット、「キングダム 大將軍の帰還」「変な家」「映画ドラえもん のび太の地球交響楽」「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」「映画クレヨンしんちゃん オラたちの恐竜日記」「ラストマイル」がヒットいたしました。また、東宝東和(株)において配給した「怪盗グルーのミニオン超変身」もヒットいたしました。前連結会計年度中に公開された「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」も引き続き高稼働となり、興行収入100億円を突破いたしました。その他、「ゴジラ-1.0」の国内外における配信権収入が業績に寄与いたしました。これらの結果、映画営業事業の営業収入は36,047百万円(前年同期比47.3%増)、営業利益は16,234百万円(同68.9%増)となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、映画館への配給が22,302百万円(前年同期比15.7%増)、劇場用映画の国内配信が2,483百万円(同511.3%増)となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品の他、「インサイド・ヘッド2」等の話題作を上映いたしました。当中間連結会計期間における映画館入場者数は21,443千人と前年同期比8.7%の減少となりました。これらの結果、映画興行事業の営業収入は41,126百万円(前年同期比7.6%減)、営業利益は6,860百万円(同15.5%減)となりました。なお、当中間連結会計期間中の劇場の異動はありません。当企業集団の経営するスクリーン数は全国で722スクリーン(共同経営56スクリーンを含む)となっております。

映像事業では、東宝(株)において、「僕のヒーローアカデミア」「ハイキュー!!」「呪術廻戦」「怪獣8号」「SPY×FAMILY」「葬送のフリーレン」「薬屋のひとりごと」等、製作・出資いたしましたTOHO animation作品の国内外の配信・商品化権収入に加え、各種配分金収入が業績に大きく貢献いたしました。パッケージ事業では「ゴジラ-1.0」が好調なセールスとなった他、TOHO animation作品の「葬送のフリーレン」「ウマ娘 プリティーダービー」「薬屋のひとりごと」等の販売が伸びました。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」をはじめとする当社配給作品の販売が好調に推移いたしました。また、「ハイキュー!!」をはじめとするTOHO animation作品のキャラクターグッズ販売が大きく伸びし営業収入に寄与いたしました。(株)東宝ステラでは、ECサイトでの販売が好調に推移いたしました。TOHOスタジオ(株)では、制作及びスタジオ事業の一体運営を図り、堅調に稼働いたしました。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では、原価管理に努めながら、映画やTV・CM等での舞台製作・美術製作やテーマパークにおける展示物の製作業務、メンテナンス業務等を受注いたしました。これらの結果、映像事業の営業収入は36,679百万円(前年同期比41.7%増)、営業利益は10,572百万円(同107.1%増)となりました。なお、上記営業収入の主な内訳として、アニメコンテンツの利用が14,588百万円(前年同期比42.9%増)、パッケージの販売が3,462百万円(同63.9%増)、映像作品等に係る美術

製作が4,552百万円(同12.3%増)となりました。

以上の結果、映画事業全体では、営業収入は113,853百万円(前年同期比20.0%増)、営業利益は33,667百万円(同47.5%増)となりました。

演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場におきまして、「舞台『千と千尋の神隠し』」「Endless SHOCK (Endless SHOCK/ Endless SHOCK Eternal)」「ムーラン・ルージュ!ザ・ミュージカル」「モーツァルト!」を上演し全席完売となりました。シアタークリエにおきましては「骨と軽蔑」が大入りとなった他、「町田くんの世界」「CROSS ROAD～悪魔のヴァイオリニスト バガニーニ～」 「ナビレラーそれでも蝶は舞うー」「ライムライト」「VOICARION XVIII～Mr.Prisoner～」等を上演いたしました。日生劇場では「王様と私」が大入りとなりました。また、「舞台『千と千尋の神隠し』」の社外公演を展開し、ロンドン・コロシウムでのロングラン公演も大盛況となりました。東宝芸能(株)では、所属俳優がCM出演等で堅調に推移いたしました。

以上の結果、演劇事業の営業収入は9,974百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益は1,241百万円(同1.9%減)となりました。

不動産事業

不動産賃貸事業では、前連結会計年度末に(株)東京楽天地を連結子会社としており、当中間連結会計期間より経営成績に含んでおります。賃貸用不動産の空室率は、当中間連結会計期間末において0.7%となりました。一方で、大規模修繕費など一時的な費用の増加があったことから、不動産賃貸事業の営業収入は18,842百万円(前年同期比29.7%増)、営業利益は5,716百万円(同5.2%減)となりました。

道路事業では、公共投資が堅調に推移しましたが、慢性的な建設技能者の不足や建設業界にも適用された「働き方改革関連法」への対応が喫緊の課題となる等、依然として予断を許さない状況が続きました。このような状況の中、スバル興業(株)と同社の連結子会社は、一般競争入札における総合評価落札方式への対応強化を図り各種工事の受注に努めた他、自然災害に対する緊急対応などもありましたが、一方で採算性の高い工事の減少がありました。その結果、道路事業の営業収入は14,948百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益は2,523百万円(同4.5%減)となりました。なお、営業収入の主な内訳は、道路の維持管理・清掃等13,786百万円(前年同期比2.9%増)であり、またその他の収益458百万円(同9.2%増)が含まれております。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)及び東宝ファシリティーズ(株)において、原材料価格の高騰や人手不足が継続する中、新規受注や仕様拡大に取り組むとともに請負金額の改定や業務の効率化等に努めました。その結果、営業収入は5,407百万円(前年同期比3.2%増)、営業利益は604百万円(同4.8%増)となりました。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は39,198百万円(前年同期比13.7%増)、営業利益は8,844百万円(同4.4%減)となりました。

その他事業

東宝共榮企業(株)の「東宝調布スポーツパーク」やTOHOリテール(株)の劇場売店等において、積極的な営業活動に努めました。その結果、その他事業の営業収入は653百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は91百万円(同19.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して、総資産は9,326百万円増加し、625,153百万円となりました。これは現先短期貸付金で21,003百万円の減少がありましたが、現金及び預金で6,155百万円、受取手形、売掛金及び契約資産で4,100百万円、有価証券で4,492百万円、土地で15,599百万円の増加があったこと等によるものです。

負債では前連結会計年度末から21,496百万円増加し、152,567百万円となりました。これは主に、短期借入金で19,985百万円の増加があったこと等によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比較して12,169百万円減少し、472,585百万円となりました。これは利益剰余金で15,206百万円の増加、自己株式が22,316百万円の増加、為替換算調整勘定で4,724百万円の増加、非支配株主持分で9,889百万円の減少があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の業績予想につきましては、2024年4月15日に公表しました数値を以下のとおり修正いたしました。修正の詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2025年2月期の連結業績予想数値の修正(2024年3月1日～2025年2月28日)

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2024年4月15日発表)	280,000	55,000	57,000	39,000	223.50
今回修正予想(B)	297,000	62,000	60,000	40,000	234.26
増減額(B-A)	17,000	7,000	3,000	1,000	—
増減率(%)	6.1	12.7	5.3	2.6	—
(ご参考) 前期実績 (2024年2月期)	283,347	59,251	63,024	45,283	259.51

セグメントごとの今後の見通しは、以下のとおりであります。

映画事業

東宝(株)、東宝東和(株)等において以下の作品を共同製作、配給する予定です。また、北米において「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」を自社配給いたします。これにより、映画営業事業の営業収入は50,900百万円(前年度比9.5%増)を見込んでおります。

東宝(株) 共同製作/配給作品	
スオミの話をしよう	映画『あの人が消えた』*
ふれる。	室井慎次 敗れざる者
劇場版ACMA:GAME アクマゲーム 最後の鍵	スマホを落とすだけなのに ～最終章～ ファイナル ハッキング ゲーム
室井慎次 生き続ける者	六人の嘘つきな大学生
PUI PUI モルカー ザ・ムービー MOLMAX *	劇場版ドクターX
映画「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」	聖☆おにいさん THE MOVIE ～ホーリーメンVS悪魔軍団～
映画『グランメゾン・パリ』	劇映画 孤独のグルメ
アンダーニンジャ	劇場アニメ『ベルサイユのばら』*
ファーストキス 1ST KISS	劇場版『トリリオンゲーム』

(注) 作品名の「*」はTOHO NEXT配給作品です。

東宝東和(株)等 配給受託作品	
アビゲイル	トランスフォーマー/ONE (東和ピクチャーズ(株))
2度目のはなればなれ (東和ピクチャーズ(株))	グラディエーターII 英雄を呼ぶ声 (東和ピクチャーズ(株))
イマジナリー	スピーク・ノー・イーブル 異常な家族
ソニック × シャドウ TOKYO MISSION (東和ピクチャーズ(株))	

(注) 配給受託作品の一覧には、共同配給作品を含んでおりません。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)等において、上記配給作品を中心として話題作を上映する予定です。映画興行事業の営業収入は70,700百万円(前年度比9.9%減)を見込んでおります。また、第3四半期以降の劇場の異動予定につきましては、2025年1月に「松江東宝5」(5スクリーン)の閉館を予定しており、全国で5スクリーン減の717スクリーン(共同経営56スクリーンを含む)となる予定です。

映像事業では、「ハイキュー!!」「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「葬送のフリーレン」を中心としたTOHO animation作品の幅広い利用による収益拡大に努めます。東宝(株)のTOHO animationにおいて、「僕のヒーローアカデミア」「狼と香辛料」「天穂のサクナヒメ」「ぷにるはかわいいスライム」等の製作出資をいたします。パッケージ事業においても「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」をはじめとしたバラエティに富んだラインナップを提供し、様々な取り組みを展開いたします。出版・商品事業は劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて「グランメゾン・パリ」「トリリオンゲーム」等の当社配給作品等を幅広く提供する予定です。また、11月3日に「ゴジラ」生誕70周年を迎え、恒例となった「ゴジラ・フェス」を中心に過去作品のテレビ放送や直営店舗「ゴジラ・ストア」での新商品発売などの施策を多面的に展開し、「東宝怪獣キャラクター」の商品化権収入等の更なる拡大を目指します。TOHOスタジオ(株)は、制作及びスタジオ事業の一体運営の機能強化を図り、映画・TV・CM制作等の受注獲得に努めてまいります。(株)東宝映像美術及び東宝舞台(株)では施工管理・原価管理等に努めながら、映画やTVの美術製作、イベント工事等を確保すべく新規顧客開拓等に努め、積極的な営業活動に取り組んでまいります。また、当中間連結会計期間末より(株)サイエンスSARUが連結子会社となっております。以上より、映像事業の営業収入は72,000百万円(前年度比6.1%増)を見込んでおります。

これらの結果、映画事業全体では、営業収入は193,600百万円(前年度比0.4%増)を見込んでおります。

演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場において「帝国劇場 クロージング ラインナップ」として演劇史に名を刻む作品を取り揃えて上演いたします。帝国劇場・シアタークリエの他、以下の公演を予定しております。この他、社外公演として「モーツァルト!」等を全国に展開いたします。東宝芸能(株)では、CM、TV、映画等での所属俳優の活動に向けて積極的に営業活動を展開してまいります。これらの結果、演劇事業の営業収入は21,700百万円(前年度比7.7%増)を見込んでおります。

帝国劇場	
(9月) モーツァルト!	(10月) DREAM BOYS
(11月) Endless SHOCK	(12-2月) レ・ミゼラブル
(2月) CONCERT THE BEST New HISTORY COMING	
シアタークリエ	
(9月) VOICARION XVIII～Mr. Prisoner～	(9月) ファンレター
(10月) tick, tick...BOOM! *	(10月) レジェンド・オブ・ミュージカル
(11月) SONG WRITERS *	(12月) next to normal
(1月) VOICARION XIX～スプーンの盾～	(2-3月) ヒーロー

その他の劇場	
(9-10月) CLUB SEVEN another place (有楽町よみうりホール)	(10月) ニュージーズ(日生劇場)*
(11-12月) プロデューサーズ (東急シアターオーブ)*	(11月) グラウンドホッグ・デー (東京国際フォーラム)*
(11-12月) ABC座2024『大金星(BIG VENUS)～時代 (とき)を超えて～』(TOKYO DOME CITY HALL)*	(12月) 天保十二年のシェイクスピア(日生劇場)
(1-2月) ケイン&アベル(東急シアターオーブ)*	

(注) 作品名の「*」は共同製作公演となります。

不動産事業

不動産賃貸事業では、東宝㈱の不動産経営部門において、2024年9月に「住之江建物」の再開発が竣工いたします。建設工事費の高騰が続く中、長期的視野に立った設備改修や再開発の企画立案を通し、全国に所有する不動産の有効活用に努めつつ、テナントに対するきめ細かな対応と意思の疎通に心掛け、業績の向上を目指します。これらの結果、不動産賃貸事業の営業収入は40,400百万円(前年度比37.5%増)を見込んでおります。

道路事業では、スバル興業㈱と同社の連結子会社が、原価管理の徹底を基本とし、積極的な営業活動を行い、受注の拡大を図ってまいります。道路事業の営業収入は29,100百万円(前年度比0.5%減)を見込んでおります。

不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理㈱及び東宝ファシリティーズ㈱が新規受注の獲得に取り組んでまいります。その結果、不動産保守・管理事業の営業収入は10,900百万円(前年度比3.7%増)を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業全体では、営業収入は80,400百万円(前年度比16.3%増)を見込んでおります。

その他事業

娯楽事業及び物販事業は、東宝共榮企業㈱の「東宝調布スポーツパーク」において積極的に営業施策等を展開してまいります。また、TOHOリテール㈱の劇場売店等において採算性等を勘案して営業活動を行います。

その結果、その他事業の営業収入は1,300百万円(前年度比3.4%増)を見込んでおります。

なお、通期における設備投資は通常の改修工事(減価償却費(予算10,300百万円)の範囲内での改修工事)に、「渋谷アクシュ」「住之江建物」の竣工等を加えた、予算28,300百万円の範囲内で行うことを見込んでおります。

以上の結果、当連結会計年度の営業収入は2970億円(前年度比4.8%増)、営業利益は620億円(前年度比4.6%増)、経常利益は600億円(前年度比4.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は400億円(前年度比11.7%減)を見込んでおります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,733	44,888
受取手形、売掛金及び契約資産	42,075	46,175
有価証券	41,200	45,693
棚卸資産	13,130	15,013
現先短期貸付金	34,999	13,996
その他	38,396	28,788
貸倒引当金	△32	△47
流動資産合計	208,503	194,507
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	104,116	105,432
土地	104,539	120,138
建設仮勘定	5,738	4,619
その他(純額)	10,456	10,106
有形固定資産合計	224,851	240,297
無形固定資産		
のれん	1,927	5,799
その他	5,089	6,251
無形固定資産合計	7,017	12,050
投資その他の資産		
投資有価証券	154,175	157,030
その他	21,373	21,371
貸倒引当金	△93	△104
投資その他の資産合計	175,454	178,297
固定資産合計	407,323	430,645
資産合計	615,826	625,153

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,765	26,715
短期借入金	41	20,026
1年内返済予定の長期借入金	1,124	654
未払法人税等	12,002	13,215
賞与引当金	1,226	1,233
その他の引当金	86	86
資産除去債務	25	132
その他	21,868	29,903
流動負債合計	69,141	91,967
固定負債		
長期借入金	2,189	1,892
退職給付に係る負債	4,004	4,063
役員退職慰労引当金	162	167
その他の引当金	86	—
資産除去債務	8,079	8,173
その他	47,406	46,301
固定負債合計	61,929	60,599
負債合計	131,071	152,567
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	14,216	14,243
利益剰余金	439,921	455,128
自己株式	△42,827	△65,143
株主資本合計	421,667	414,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,216	34,291
繰延ヘッジ損益	—	△16
為替換算調整勘定	2,642	7,366
退職給付に係る調整累計額	363	383
その他の包括利益累計額合計	37,223	42,025
非支配株主持分	25,865	15,976
純資産合計	484,755	472,585
負債純資産合計	615,826	625,153

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業収入	139,642	163,681
営業原価	75,969	84,471
売上総利益	63,672	79,209
販売費及び一般管理費		
人件費	10,566	12,267
広告宣伝費	3,325	5,152
賞与引当金繰入額	774	924
退職給付費用	561	528
役員退職慰労引当金繰入額	14	21
借地借家料	4,812	4,489
その他	12,864	14,908
販売費及び一般管理費合計	32,920	38,293
営業利益	30,752	40,915
営業外収益		
受取利息	357	142
受取配当金	1,147	1,136
持分法による投資利益	163	—
為替差益	352	9
その他	172	260
営業外収益合計	2,194	1,549
営業外費用		
支払利息	3	38
持分法による投資損失	—	2,623
子会社清算損	51	—
その他	10	21
営業外費用合計	66	2,683
経常利益	32,881	39,781
特別利益		
受取保険金	—	20
特別利益合計	—	20
特別損失		
固定資産圧縮損	—	9
出資金評価損	107	—
立退補償金	—	150
特別損失合計	107	159
税金等調整前中間純利益	32,773	39,642
法人税、住民税及び事業税	9,451	12,860
法人税等調整額	759	△519
法人税等合計	10,211	12,341
中間純利益	22,562	27,300
非支配株主に帰属する中間純利益	810	815
親会社株主に帰属する中間純利益	21,751	26,485

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益	22,562	27,300
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,870	74
為替換算調整勘定	1,455	439
退職給付に係る調整額	51	19
持分法適用会社に対する持分相当額	7	4,268
その他の包括利益合計	12,384	4,802
中間包括利益	34,947	32,103
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	34,136	31,287
非支配株主に係る中間包括利益	810	815

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	32,773	39,642
減価償却費	4,931	6,184
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	26
受取利息及び受取配当金	△1,505	△1,279
支払利息	3	38
持分法による投資損益(△は益)	△163	2,623
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△1,980	△3,760
棚卸資産の増減額(△は増加)	△3,629	830
仕入債務の増減額(△は減少)	1,722	△6,232
未払消費税等の増減額(△は減少)	297	△82
その他	5,691	5,145
小計	38,139	43,138
利息及び配当金の受取額	1,635	1,324
利息の支払額	△8	△40
法人税等の支払額	△10,689	△11,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,077	33,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△30,396	△13,992
有価証券の売却による収入	31,100	32,010
有形固定資産の取得による支出	△10,407	△21,727
有形固定資産の売却による収入	1	54
投資有価証券の取得による支出	△13,599	△4,073
子会社株式の取得による支出	—	△12,242
貸付けによる支出	△1	△728
貸付金の回収による収入	4	2
金銭の信託の取得による支出	△2,300	△300
金銭の信託の解約による収入	—	3,300
その他	△2,278	△5,904
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27,876	△23,603
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	20,000
短期借入金の純増減額(△は減少)	△9	△14
長期借入金の返済による支出	△31	△929
自己株式の取得による支出	△4	△20,057
配当金の支払額	△6,988	△11,257
非支配株主への配当金の支払額	△296	△318
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△4	△0
リース債務の返済による支出	△72	△8
その他	9	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,398	△12,586
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,599	172
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,597	△2,820
現金及び現金同等物の期首残高	112,121	82,424
現金及び現金同等物の中間期末残高	107,524	79,604

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年4月15日開催の取締役会決議に基づき自己株式4,000,000株の取得を行っております。この取得等により、当中間連結会計期間において、自己株式が22,316百万円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が65,143百万円となっております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	94,872	9,707	34,463	139,042	599	139,642	—	139,642
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,086	14	2,549	3,649	142	3,792	△3,792	—
計	95,958	9,721	37,012	142,692	742	143,434	△3,792	139,642
セグメント利益又は損失(△)	22,831	1,264	9,250	33,346	114	33,460	△2,708	30,752

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,708百万円は、セグメント間取引消去△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,706百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映画 事業	演劇 事業	不動産 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	113,853	9,974	39,198	163,027	653	163,681	—	163,681
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,155	24	2,573	3,753	119	3,872	△3,872	—
計	115,008	9,999	41,772	166,780	772	167,553	△3,872	163,681
セグメント利益又は損失(△)	33,667	1,241	8,844	43,753	91	43,845	△2,929	40,915

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツ施設の経営事業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,929百万円は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,931百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。